

# 第3回「いのちのパネル展」

10月になると、毎年両キャンパスで各1週間実施される「いのちのパネル展」です。交通事故被害者の遺族会のご協力を得て、不幸にも交通事故でお亡くなりになった方たちのポートレートや日記、その日の様子等が綴られたパネルを展示しています。同様のパネル展は道内の他大学や公的施設でも実施されていますが、今回本学で見た学生の97%にとって、「いのちのパネル展」は初体験でした。両キャンパスのアンケートには多くの学生の感想が寄せられ、パネルを提供してくれた被害者遺族会のスタッフは大変喜んでいました。被害者の方たちのご冥福をお祈りするとともに、命の尊さを学ばせていただいたことに、心から感謝をした2週間でした。

## 第3回「命」を学ぶ特別講演会を開催 「涙にいのちあり いのちに愛あり」

日本医療大学「命を学ぶイベント」の一貫として、11月29日(火)10時より真栄キャンパス(つしま記念ホール)にて第3回「命」を学ぶ講演会「涙にいのちあり いのちに愛あり」が開催されました。保健医療学部各学科の1年次学生および教職員のほか、ノテ福祉会から職員の方も聴きにきてくださり、参加者は合計173名になりました。

講師は奈井江町で50年以上にもわたって地域医療を続けるかたわら、北海道新聞の連載「いのちのメッセージ」の執筆などでも著名な方波見康雄先生です。奈井江町のある看護師が「キャンサーサバイバー(がんと生きる人)」として過ごした闘病生活の紹介、「ペンフィールドのマップ」やゲノム展開の説明を通して、「生きる意味の深さ」を考えることの大切さ、「他者の痛みへの共感性」、「唯一無二の自分」を自覚することなど、医療職としての心構えについてさまざまなお話をいただきました。

学生たちは熱心にメモをとり、自分が将来どのような医療者になりたいのか思いをめぐらせながら聴き入っていました。(看護学科 森口先生)



▲ 方波見 康雄 先生



方波見 康雄 氏著書  
『生老病死を支える』  
岩波書店



# あずまし

日本医療大学キャンパス通信  
学生委員会が発行する  
日本医療大学の「今」を伝えるニュースレター

no.13  
2016.12.20 発行



## 日本医療大学 CBR サークル 「北海道国際協力フェスタ 2016」 に実行委員として参加!



▲ メンバーが、いちから作ったポスター



広報・インフォデスク担当 当日はたくさんの方は文教大学の学生さんも対応しました。一緒にでした!

12月3日(土)札幌地下歩行広場にて北海道国際協力フェスタ 2016 が開催されました。このイベントは年に一度、国際協力活動をしている北海道の団体が集い、市民に国際協力や団体の活動を知ってもらおうと開催されているイベントで、今年で19年目になります。このイベントの実行委員を募ったところ、志願してくれた CBR サークルのメンバー(リハビリテーション学科2年生3名)は、6月から会議に参加し、広報活動や当日のインフォメーションデスクを担いました。

初めてパワーポイントを使ってポスターを作ったり、参加した32団体と連絡を取りあったり、今までにない経験をしたと思います。苦勞もたくさんあったと思いますが、その分当日の笑顔はととても素敵で、輝いていました!他大学の学生さんや国際協力活動をしている団体さんと交流でき、つながりをもてたことなど、今後役に立てば幸いです。(リハビリテーション学科 助教 木原先生)

おまけ omake 国際協力や地域に対する活動に興味のある人はぜひご連絡ください。(CBR サークル代表者 理学療法専攻2年 内山まで)

## 診療放射線学科1年生の中澤さんが参加するアート展「ミックスてん」のお知らせ

高校の時の友達と一緒に、最近描いた絵やデザインを展示します。「ともだちのともだちのともだちのグループ展」というサブタイトルに、期待が高まります。本学の中澤さんは油絵を出品しています。ぜひお時間のある方は、ほくせんギャラリーにお出かけください。

日程 2017年1月4日(水)から1月8日(日)11時~17時  
場所 ほくせんギャラリー [アイボリー] (〒060-0062 札幌市中央区南2条西2丁目 NC HOKUSEN ブロックビル 4F)

### 新たな学内団体がスタート!

今年度後期の学内団体の申請は以下の2件でした。現在活動中の団体は21あり、今回の申請団体で本学には23の団体が活動することとなりました。

テニポン

真栄バスケットボール

テニポンって何?

テニポンは様似町が発祥のテニスとピンポン(卓球)を組み合わせたニュースポーツで、バドミントンコートを利用して、専用のラケットとボールを使い、ワンバウンドしたボールを打ち合います。やわらかい軽いボールを使うので、誰でも手軽に行うことのできるスポーツだそうです。

# 第3回「日医祭」

無事終了!



日本医療大学

## 【劇団アンデルセン公演】

日医祭の為に、自分の為に？  
頑張って会場の設営や準備を  
行いました！



昨年に比べ舞台演出が華やかで、確実に劇団としての技術が向上しているのがわかる舞台でした。背景のビジュアルがコンピューターの画像を活かしたものになっていて、展開がとても画期的でした。

快晴!

体育館  
会場完成!

## 【学生の Live ステージ】

大音響に驚く先生方を尻目に、学生たちは盛り上がっていました。普段の教室での物静かな姿とは全く違う、水を得た魚のようなステージでした。

## 【ミニ・オープンキャンパス】 10時30分～12時30分

学生たちが企画、実行し、普段の学びの成果や様子をお見せしました。



アンデルセングルメ祭りと同様開催をしていた日医祭が、第3回目の今年、初めて単独開催となりました。学内向けの30日は翌日の準備や模擬店を出店する学生と教員向けの清田区による衛生講習会、劇団アンデルセンの舞台や音楽サークルの発表、翌日のテント設営などでキャンパスはまさに大忙し。学長の畑でとれたゆでジャガイモが、疲れたみんなを癒してくれました。2日目の10月1日は学外向けの各学科ボランティア学生によるミニ・オープンキャンパス、ゆりあんレトリバアやハイキングウォーキングなどの芸人さんたちによる「よしもとLive」、21店舗の模擬店も開店しました。来場者は550人、「よしもとLive」にも340人もの観客が集まりました。

## 【よしもとLive】14時～15時

吉本の芸人2組と一人によるLiveです。普段お笑いの番組はほとんど見ない施設の高齢者や教職員も集まりました。プロの芸人のサービス精神には脱帽しました。学生が最も盛り上がった1時間でした。



最後はみんなで  
パチリッ!

## 【学生、教職員による模擬店】11時～16時

模擬店の数は、昨年の2倍の規模となりました。「たこぷび」や「パチパッチアイス」「流しらーめん」など、ここでしかお目にかかれぬオリジナルメニューも多く、ほとんどのお店が売り切れとなりました。



名物?  
大人気のパチ  
パッチアイス!

コスプレで  
制服復活!?

リハビリ-テーション  
学科のみなさん

本部

誰?



## 日医祭の後のご報告

ノテ福祉会を筆頭にグループ6法人からは10万円を授与され、金券を利用した施設職員、入所者のおかげで模擬店のほとんどは完売となりました。売り上げの一部はユニセフ協会を通じて世界の恵まれない子供たちに届けさせていただきました。実行委員会の学生たちの努力に心からの拍手を送ります。



▲ 対馬 理事長から10万円が授与 ▲ 北海道ユニセフ協会への贈呈式